

26 酪農経営体生産性向上緊急対策事業

【6,000(6,000)百万円】

対策のポイント

酪農家の「働き方改革」を推進するため、労働負担軽減・省力化等に資する取組を支援します。

<背景/課題>

- ・毎日欠かすことができない搾乳や給餌作業、深夜対応も求められる分娩監視等、酪農家の労働負担が大きいことが、離農の原因や後継者による継承が進まないことの一因となっています。
- ・また、乳用後継牛が減少する中で初妊牛価格が高騰しており、生乳生産基盤の確保のためには、乳用後継牛の自家生産に取り組み易い生産環境づくりが急務となっています。
- ・このため、酪農家の労働負担軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化に資する機械・装置の導入等を支援し、労働条件を改善する必要があります。

政策目標

労働負担軽減・省力化の推進による、酪農家の労働時間の短縮

<主な内容>

地域の酪農家等、酪農関係者が参画する協議会において、労働負担軽減や乳用後継牛の確保を図る計画が策定された場合、当該計画の実現のため、以下の取組を支援します。

1. 労働負担軽減・省力化等に資する機械装置の導入支援

酪農を営む者に対し、その実情に応じた労働負担軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化に資する機械装置の導入を支援します。

2. 乳用後継牛預託施設の整備等の支援

乳用後継牛の育成を担う預託施設に対し、乳用後継牛の受入体制を強化するため、預託施設の整備等を支援します。

3. 集合搾乳施設の整備

複数戸の酪農家が協業し、搾乳作業などの作業を外部化・集中管理するモデル的な集合搾乳施設の設置を支援します。

〔補助率：定額、1/2以内〕
〔事業実施主体：民間団体〕

[お問い合わせ先：生産局畜産振興課 (03-6744-2587)]

酪農経営体生産性向上緊急対策事業

平成30年度予算概算要求額
6,000(6,000)百万円

- 酪農家における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化に資する機械装置の導入及び後継牛育成の外部化に資する取組を支援。
- 搾乳などに関する作業の集中管理により外部化するモデル的な取組を支援。

酪農経営の課題

- 酪農は毎日の搾乳作業や飼料給与等により、畜産業の中でも酪農のみが1人当たりの平均年間労働時間が2千時間を超過。
- 初妊牛価格の高騰により、後継牛の自家育成に取り組む農家は増えると想定されるが、この取組はさらなる労働負担を招く。

労働負担軽減・省力化等に資する機械装置の導入

○搾乳関係



【搾乳ロボット】
乳用牛が自発的に搾乳室に出入りし、搾乳作業を自動化

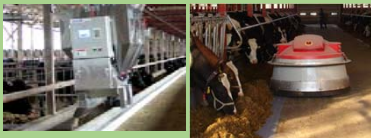


【ミルクングパーラー】
乳用牛を搾乳室に移動させ、搾乳作業を集中化



【搾乳ユニット搬送レール】
つなぎ飼い経営で利用する搾乳器(約9kg)をレールで搬送

○飼料給与関係



【自動給餌機・餌寄せ装置】
・餌槽に飼料を散布し、飼料給与作業を自動化
・口元に餌を戻し、食べ残しを低減



【ほ乳ロボット】
・ほ育牛が自発的に飲乳し、ほ乳作業を自動化

○家畜飼養管理



【発情発見装置・分娩監視装置】
・牛の活動量を自動計測し、行動観察に拘束されことなく発情等を発見

育成体制の強化

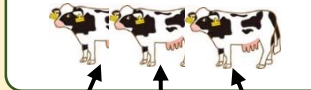
後継牛育成の負担軽減のため、育成牛の受け入れ体制の強化を図る取組を支援。

後継牛の育成施設



拡張・
機器整備

育成牛の受け入れ頭数を拡大

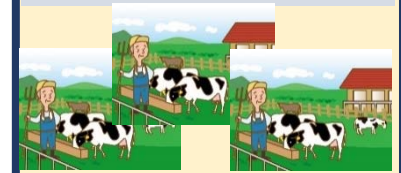


後継牛を預託し、
育成の負担を軽減



集合搾乳施設の設置

搾乳作業の省力化のため、各農家が飼養する搾乳牛を集め、搾乳作業を共同で行う施設の整備を支援。



搾乳牛の
共同管理

搾乳ロボット等を利用し搾乳牛の管理を省力化

地域の酪農家

輪番で搾乳牛を管理し、毎日の搾乳作業から解放。

